

## 科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 29 年 6 月 15 日現在

機関番号：14601

研究種目：若手研究(B)

研究期間：2013～2016

課題番号：25780527

研究課題名(和文)多様性尊重と社会統合のためのグローバル時代のシティズンシップ教育カリキュラム開発

研究課題名(英文)Citizenship Education Curriculum for Diversity and Social Integration

## 研究代表者

橋崎 頼子 (Hashizaki, Yoriko)

奈良教育大学・教育学部・准教授

研究者番号：30636444

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 2,000,000円

研究成果の概要(和文)：研究全体の主な成果は三点である。  
多様性尊重と社会統合の理念を持つ欧州評議会のシティズンシップ教育の教授用指導書を分析し、カリキュラム構成原理、教授学習過程の特徴、小・中・高の系統性を明らかにした。欧州評議会のシティズンシップ教育を担う教師教育に関する聞き取りを行った。入手した資料を基に研修プログラムの目標・内容・方法・参加者の学びに関する分析を行った。日本の中学校のシティズンシップ教育カリキュラム(3年のうち1年目)の開発を行った。自他を隔てる枠組みを「ボーダー(境界)」という視点から批判的に検討し、多様性尊重を促す取り組みを行った。ノルウェーの研究者と共同でカリキュラムを評価した。

研究成果の概要(英文)：The main results of the research are as follows:  
1. The research analyzed teaching manuals for democratic citizenship and human rights education developed by the Council of Europe, considering ways in which they support diversity and social integration. It examined scope and sequence of the curriculum for primary, lower and upper secondary levels, as well as the process of teaching and learning. 2. The research also looked into the teacher education program supported by the Council of Europe that aims to help teachers to understand key concepts of citizenship education. The researcher also interviewed teacher trainers. 3. The researcher developed citizenship education curriculum for Japanese 1st year junior high school students, in cooperation with a teacher of the school. The curriculum aims to help students to look deeply into different borders critically and to celebrate diversity. The meaning of the curriculum was discussed with my co-researchers from Norway.

研究分野：シティズンシップ教育カリキュラム

キーワード：シティズンシップ教育 カリキュラム 多様性 社会統合

## 1. 研究の背景

「多様性の尊重」と「社会統合」は、多様な文化的背景を持つ人々との共生という課題を持つグローバル社会のシティズンシップ育成を考える上での重要な課題である。これまで、国民になるには、国家の伝統文化を基盤とした国民としての自覚を共有することが前提とされてきた(中村 2005)。そのような意識を共有しない者は、排除されるか、同化を条件に加入を認められてきた。しかし、グローバル化による人の移動と国内の多文化化・多民族化により、同質性に基づく国民ではなく、多様性を尊重するシティズンシップの概念が重視される必要がある。一方、多様性を尊重するだけでは、それに起因する社会的経済的格差や排除の要因につながりかねないため、多様な背景を持つ人々を社会の一員として統合していく働きかけが必要となる。以上の問題意識より、本研究は「多様性の尊重」と「社会統合」のためのシティズンシップ教育に着目した。

欧州評議会がすすめるシティズンシップ教育は、以上の課題にこたえる実践の先行事例である。そのため、この取り組みの詳細な分析をもとに、日本の中学校でのシティズンシップ教育のカリキュラム開発に取り組もうと考えた。筆者は、これまでも欧州評議会のシティズンシップ教育の取り組みを、文献を中心に調査してきたが、本研究では現地調査を組み込んだ。また、上記の問題関心を、近隣中学校の社会科の教諭と共有できおり、それを背景として、日本の中学校でのカリキュラム開発に共同で取り組むことを目指した。

## 2. 研究の目的

本研究の目的は、欧州評議会におけるシティズンシップ教育の実践調査をふまえて、多様性と社会統合の視点を含んだ日本の中学校のシティズンシップ教育のカリキュラム

開発と評価を行うことである。具体的には、三つのことに取り組むことを目指した。

(1) まず、欧州評議会の小・中・高レベルのシティズンシップ教育のカリキュラムの構成原理を明らかにするため、教師用指導書を分析し、その系統性を考察することである。欧州評議会では、各発達段階に相当する教師用指導書を出しているため、それらの分析を通して連続性をみていく。

(2) 次に、欧州評議会のシティズンシップ教育が実践されている場に調査に行き、教授学習過程の特徴を明らかにすることである。シティズンシップ教育の教授学習過程の重要な特徴として、対話や討議それを通じた合意形成があるが、この活動を行う際には、教室の民主的な雰囲気づくりなどが重要となる。

(3) 最後に、第一と第二の点に関する研究成果をふまえて、日本における中学校のシティズンシップ教育カリキュラムの開発を行うことである。日本の国際理解教育の実践の問題として、「多様性の尊重」を扱う際に、「日本人」と「外国人」という自他理解のカテゴリーを自明のものとし、それらの組み換えが意識されていないことが指摘されている。また「社会統合」についても、自他関係を心情理解にとどめ、ルール設計などの社会参画の文脈ではとらえられていないという問題点がある。以上のことより、これらの問題を克服するカリキュラム開発に取り組んだ。

## 3. 研究の方法

(1)小・中・高レベルのシティズンシップ教育の教師用指導書を分析し、カリキュラムの原理を明らかにする。

(2)欧州評議会のシティズンシップ教育が実践されている場に調査に行き、使用されてい

る資料、実践の場の雰囲気、教育方法などについて調査を行う。それを通して、教授学習過程の特徴を明らかにする。

(3) 中学校教諭との共同の取り組みを通して、日本における中学校のシティズンシップ教育の視点、カリキュラムの編成原理を検討し、実践、評価する。

#### 4. 研究成果

研究全体の成果として四点を挙げる。

(1) 欧州評議会の小・中・高のシティズンシップ教育の教授用指導書について分析を行い、各段階で学ぶ内容とそのつながりを明らかにした。小学校段階では、共同体において自己を肯定的に位置づけ、共同体の成員としての自覚を高める学習が、中学校段階では、異なる主張の対立を人権の観点から分析し、合意形成のための手続きを探究させる学習が、高等学校段階では自己の意思決定と他者との交渉を通じた社会参加の学習が重視されていた。

これに加えて高校レベルの教師用指導書の詳細な分析を通して、カリキュラム・単元は、「中心概念」「タスク」「手続き」を媒介とした知識、スキル、価値・態度の学習となっており、そこには「構成」「脱構成」「再構成」という展開が見られることを明らかにした。また、教授学習過程の特徴として社会構成主義の学習となっており、それは、多様な見解の表明の機会を提供し、共有可能な普遍的な価値についての議論と合意形成を前提とする点で意義があることを示した。

以上については研究論文として報告した(橋崎 2014, 2015)。

(2) 欧州評議会のシティズンシップ教育の実践現場の調査については、実践校への訪問がかなわなかったため、予定を変更した。本研究では、実践をする教師に対する研修や、そ

こでの教育方法について調査を行った。具体的には、欧州評議会の中で、教師教育を担当するに European Wergeland Centre(ノルウェー・オスロ)を訪問し、開発した教師用指導書を教師向けの研修でどのように使用しているのかについての聞き取りを行った。研修では、教師用指導書を参考資料としつつも、教師が自らの既有概念を意識し、検討して、そこから自分たちの実践を作り上げる過程が重視されていることが分かった。

さらに、欧州評議会の加盟国の教師・教員養成課程の学生たちが、実際に集まったり、ウェブ上において、シティズンシップ教育の主要概念(例えば、人権や民主主義)の意味づけについて議論する研修プロジェクト(CLEAR プロジェクト)についての調査を行った。European Wergeland Centre で聞き取りを行った後、入手した資料をもとにプロジェクトの理念、内容、方法、参加者の学びについて分析を行った。プロジェクトは、次の点から、多様性尊重のためのシティズンシップ教育の事例として意義があることを示した。それらは、批判的考察を通じたシティズンシップ教育に関わる主要概念の多角的理解、言語学習の過程における議論や参加スキルの育成、多様なアイデンティティを受容する態度の育成のあり方について、具体的に示していることである。これについては研究論文として報告した(橋崎 2016)。

(3) カリキュラムを計画・実施する上で、教師が人権や民主主義に関連して持っている意識がどのようなものかということも重要である。本研究では、日本とノルウェーの教員養成の学生が、どのように人権概念について理解しているのかということについての調査を行い、研究成果として報告した(Kitayama and Hashizaki 2016)。

(4) 日本の中学校における3年間のうち、1

年目のシティズンシップ教育のカリキュラムの開発に、中学校社会科担当の教諭と共同で取り組んだ。欧州評議会の特徴である、多元的アイデンティティの育成について、生徒たちが、地域、国家、グローバルなレベルの問題に直面している人びとと出会い、その出会いを通して自分の問題として様々な社会の問題に向き合っていくための年間カリキュラムを作成した。特に、「ボーダー(境界)」というキーワードを用いて、自他関係を「日本人」と「外国人」、障がいがある「ない」といった単純な二者択一でとらえるような思考を批判的に検討する働きかけを行った。この中学校での実践は、研究論文として報告するとともに (Kitayama, Osler and Hashizaki 2017)、大学の教職科目の中での報告の機会も設けた (小嶋 2017)。

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文](計4件)

橋崎頼子(2014)「人権に基礎をおくシティズンシップ教育カリキュラム—欧州評議会の小・中・高段階の教師用指導書の連続性に着目して—」『奈良教育大学教育実践開発研究センター研究紀要』査読有、第23号、111-119.

橋崎頼子(2015)『「多様性」と『普遍性の担保』をめざすシティズンシップ教育の教授学習過程』『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』第1号、pp.189-197.

橋崎頼子(2016)「シティズンシップ教育における多様なアイデンティティ尊重のための概念学習—欧州評議会の CLEAR プロジェクトを通して—」『奈良教育大学次世代教員養成センター研究紀要』第2号、pp.165-175.

Kitayama, Y., Osler, A. and Hashizaki, Y. (2017) Reimagining Japan and fighting

extremism with the help of a superhero: a teacher's tale. *Race Equality Teaching*.

[学会発表](計5件)

橋崎頼子「人権を基礎におくシティズンシップ教育の学習過程と教師の役割—欧州評議会の教師用指導資料分析を通して—」日本国際理解教育学会、2014年6月14日~15日.

橋崎頼子「欧州評議会のシティズンシップ教育カリキュラム—社会的包摂に着目して—」シティズンシップ教育国際シンポジウム、2015年3月8日.

橋崎頼子「シティズンシップ教育におけるエンパワーメントのための概念学習—欧州評議会の教師教育への取り組みを通して—」日本国際理解教育学会、2015年6月13日.

Kitayama, Y. and Hashizaki, Y. (2016) Students' perception of human rights and democratic citizenship. *The Bridging Teacher Education Forward*. 2016年6月7日.

小嶋祐伺郎「地球市民意識の形成と道德教育」奈良教育大学国際交流センター主催シンポジウム「教員養成大学におけるグローバル人材を育てる」2017年2月18日.

## 6. 研究組織

### (1) 研究代表者

橋崎 頼子 (HASHIZAKI Yoriko)

奈良教育大学教育学部・准教授

研究者番号：30636444

### (2) 研究協力者

・北山夕華 (KITAYAMA Yuka)

サウス・イースト・ノルウェー大学

・小嶋佑伺郎 (OJIMA Yujiro)

奈良教育大学附属中学校